

恐山から南下し、陸奥湾に沿って国道 338 号線を脇野沢まで走ります。むつ市は県下で最大の面積の市ですが、人口密度は非常に低く、過疎の町です。海は静かで、家もまばらで、気持ちよく進みました。昨日、一昨日の豪華なランチとは打って変わって、おにぎりとお茶を口に放り込みながら、運転します。それでも、見た事のない風景にワクワクしてしまいます。マサカリの刃の下部の脇野沢から、刃に沿って北上し、佐井村の仏ヶ浦を目指しました。



途中で、車を降りて写真を撮っている人がいました。山道の擁壁の上を猿が次々と進んでいました。なんと友人は車を降りて写真を撮りました。大胆さに、びっくりです。大人しそうなサルですが、どうも私にはケダモノにしか思えません。窓越しに写真を撮るのがやっとでした。ここはサル生息北限地だそうです。

仏ヶ浦の駐車場に着くと、今日は海が荒れて遊覧船が出ないと教えてくれる人がいました。ここでしか見られません。「海に下りて見る?」「OK!」となり、標高 130m位の高さの崖から、磯へ距離 600mの階段を下ることにしました。股関節痛を抱える私、アキレス腱を切った後遺症を抱える友人の老女二人なのに、気分は女学生。どんどん下っていきましたが、途中で、登って帰ることを思い出しました。時すでに遅し! ゆっくり行こうねと励まし合いながら、とうとう磯辺まで下りることができました。隆起と侵食を繰り返した岩が人型に見えます。これを仏の姿に見立てたのでしょうが、なるほどと思えます。何も無い海辺に奇岩は見事な絵を描いていました。



行きはヨイヨイ(でもなかったけど)、帰りは究極の地獄。仏に会うためには修羅場の地獄を見るのねなどと愚痴り、へとへとになって車に戻りました。

この後、私は半島の突端にある大間原発を見たいし、原発の敷地内に畑を所有して、原発建設に反対している女性に会いたいと車を走らせますが、だんだん夕方になってきました。距離もありました。彼女に電話を掛けると留守でした。グーグルマップでみた地図と現物とは差がありました。ツメが甘いことを実感し、会うことを断念し、建設途中の大間原発の横を通り、大間の町を走りました。そこで異様な光景を見たのです。国道沿いに、間隔を置いて次々と、白い見張りの番所が設置されていました。「車両確認」のような看板がついていましたが、何が目的でしょうか。寒気を感じました。監視カメラが当たり前になっているご時世ですが、これは露骨でした。

大間から東に向かい、津軽海峡に面した下風呂温泉に宿をとりました。源泉かけ流しとのこと。早速温泉につかりましたが、極度に疲れていたのでしょうか。二人揃って「湯あたり」しました。脱衣場で頭はクラクラ、心臓はドキドキ、息はハアハア、脚はグニャグニャ。動けなくなっていました。冷たい水、冷たいタオルを持ってきてもらいました。初体験でした。